

令和3年度 地域部活動推進事業説明書

令和3年9月30日

NPO法人萩原スポーツクラブ

はじめに

地域部活動推進事業は、中学校運動部活動改革の実行に関する事業です。
学校と地域が連携して改革を進めることを提案しています。

先に作成した「地域部活動推進事業詳細設計書」では、次の事項についてまとめました。

- ①本事業の目的と背景について
- ②下呂市の現状確認 萩原南中・萩原北中と萩原S Cの連携
- ③地域連携の現状調査・分析 岐阜県内の学校と地域の連携事例紹介・分析
- ④連携を行う上での要点について 学校の目的(部活動改革)と地域の目的(総合型クラブの理念)
- ⑤中学校運動部活動改革の進め方 令和3年度実施作業予定

中学校の連携相手として総合型クラブを選択することとします。(萩原スポーツクラブは総合型クラブです)
今回事業は、中学校側の提案・要望は中学校部活動改革です。

連携相手である総合型クラブは、地域の中学生世代のスポーツ育成をめざしており、そのためには部活動との連携は重要で効果的な活動となります。しかし、部活動連携だけでは不十分な課題もあります。

萩原スポーツクラブは、本事業を「地域の小中学生のスポーツ育成事業」と設定します。この事業の中に、地域部活動推進が含まれていると捉えて、事業企画を整理し、関係者にて協議・検討するための資料として説明書を作成します。

地域部活動推進事業の委託範囲を超えると考えられる内容もありますが、事業推進に必要な関連事項としていた委託内の業務として実施します。

【目次・概要説明】 資料を次の分類で掲載します

1. **共通認識編** 全ての関係者対象(学校・総合型クラブ・行政・保護者など) 1-1～1-8
みんなが内容を理解し、意思統一を図る
2. **中学校業務編** 教職員、部活動指導員
①部活動の現状分析、②学校部活動及び地域部活動の設計
3. **地域業務編** 総合型クラブ(クラブ指導者など)
地域部活動の実施を想定した総合型クラブの業務変更や運用改善
4. **行政作業編** 下呂市(教育委員会・市長公室など)
地域部活動や総合型クラブへの助成・支援の見直し
5. **ネットワーク編** 「2.」～「4.」をまとめる

【推進事業担当組織】

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ①教育委員会 学校教育課(学校教育) | 岐阜県教育委員会から事業を受託(再委託先) |
| ②萩原スポーツクラブ | 下呂市教育委員会から事業を受託(再々委託) |
| ③萩原南中学校 | 本事業の拠点校 |
| ④市長公室 市民活動推進課(社会教育) | スポーツ普及、スポーツ団体育成 |

※地域部活動推進会議

上記①～④と関係組織(校長会・教頭会・中体連・スポーツ協会など)にて構成

◎地域部活動推進の成果目標

【中学校部活動改革の目標】

①部活動顧問の時間外勤務の削減 学校の働き方改革

月平均10時間削減（下呂市目標）

②少子化による部活動の存続問題への対応 学校単位から地域単位の活動へ移行

下呂市北部（萩原南、萩原北、小坂）中学校の合同部活動の実施

③地域部活動に教員が指導できる体制づくり

指導に携わる教員が働ける環境や指導者を雇用できるクラブの体制づくり

指導に携わらない教員も含め、顧問とクラブ指導者の指導方針に関する意思統一

④生徒の自主的自発的な参加の機会を増やす

活動種目の増加、複数種目への参加、自主イベントの開催など

⑤いじめ、体罰、バーンアウトの根絶やスポーツ傷害の削減

勝利至上主義、過剰な活動、過剰な関与など指導者・保護者に起因する問題解決

【総合型クラブの目標】 *本事業に追加した項目*

①いつでも誰でもスポーツに、自由に参加できる

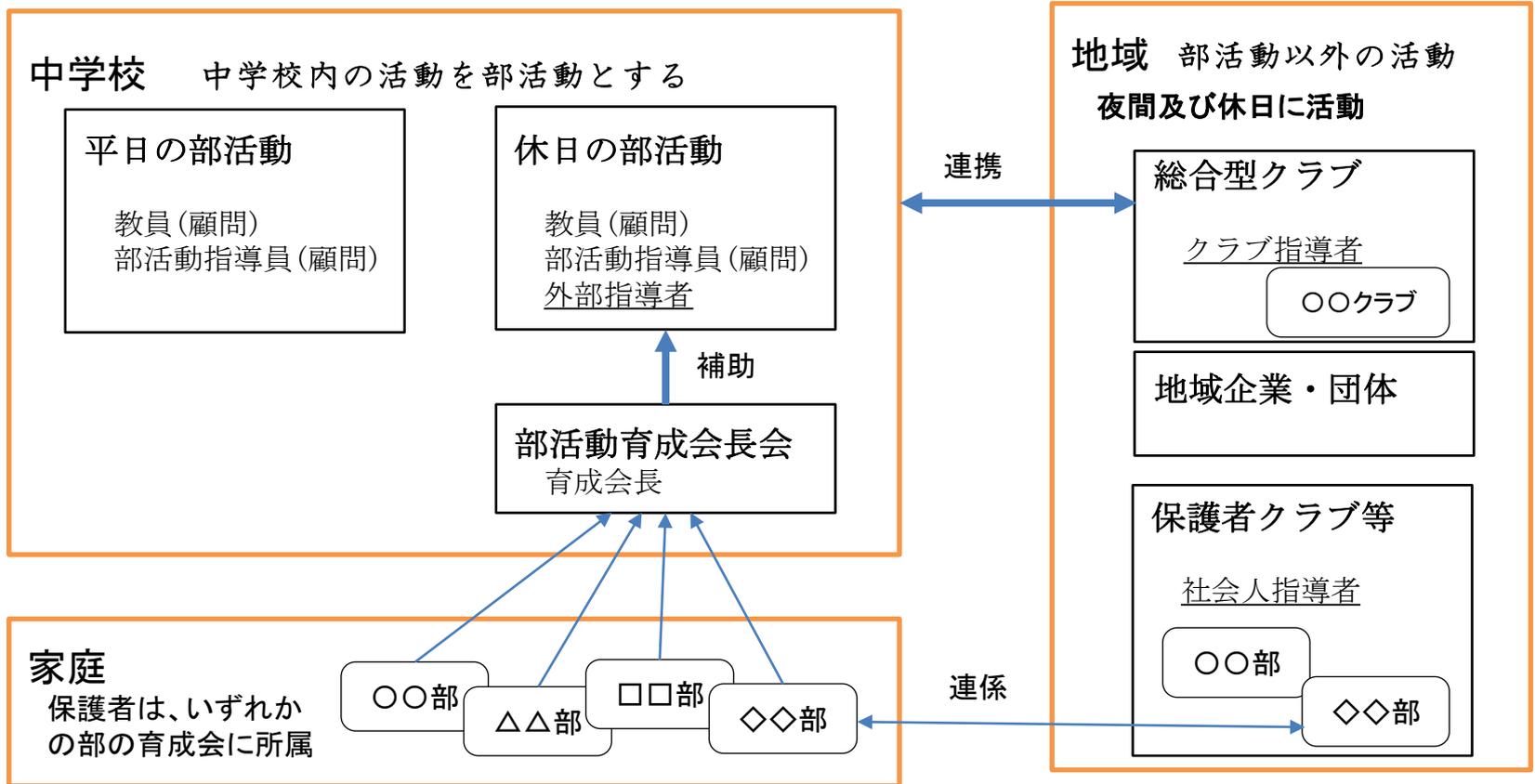
部活動退部後、小中一貫指導、多種目への参加、多志向な参加

②地域のスポーツの普及・発展に貢献する

大人になってもスポーツを続ける人、指導やサポートに携わる人材の育成

1-1 現在の中学校運動部活動概要（岐阜県の中学生のスポーツ活動）

中学校部活動は同一形態で運営されていますが、地域は各市町村で多様な形態で関わっています。



指導者の分類

部活動指導員 : 校長の任命を受け、部活動の指導や大会の引率等を単独で行える非常勤職員

外部指導者 : 部活動の支援をするために、市町村、若しくは校長が委嘱している指導者

社会人指導者 : 顧問及び外部指導者以外で、保護者等が委嘱している指導者

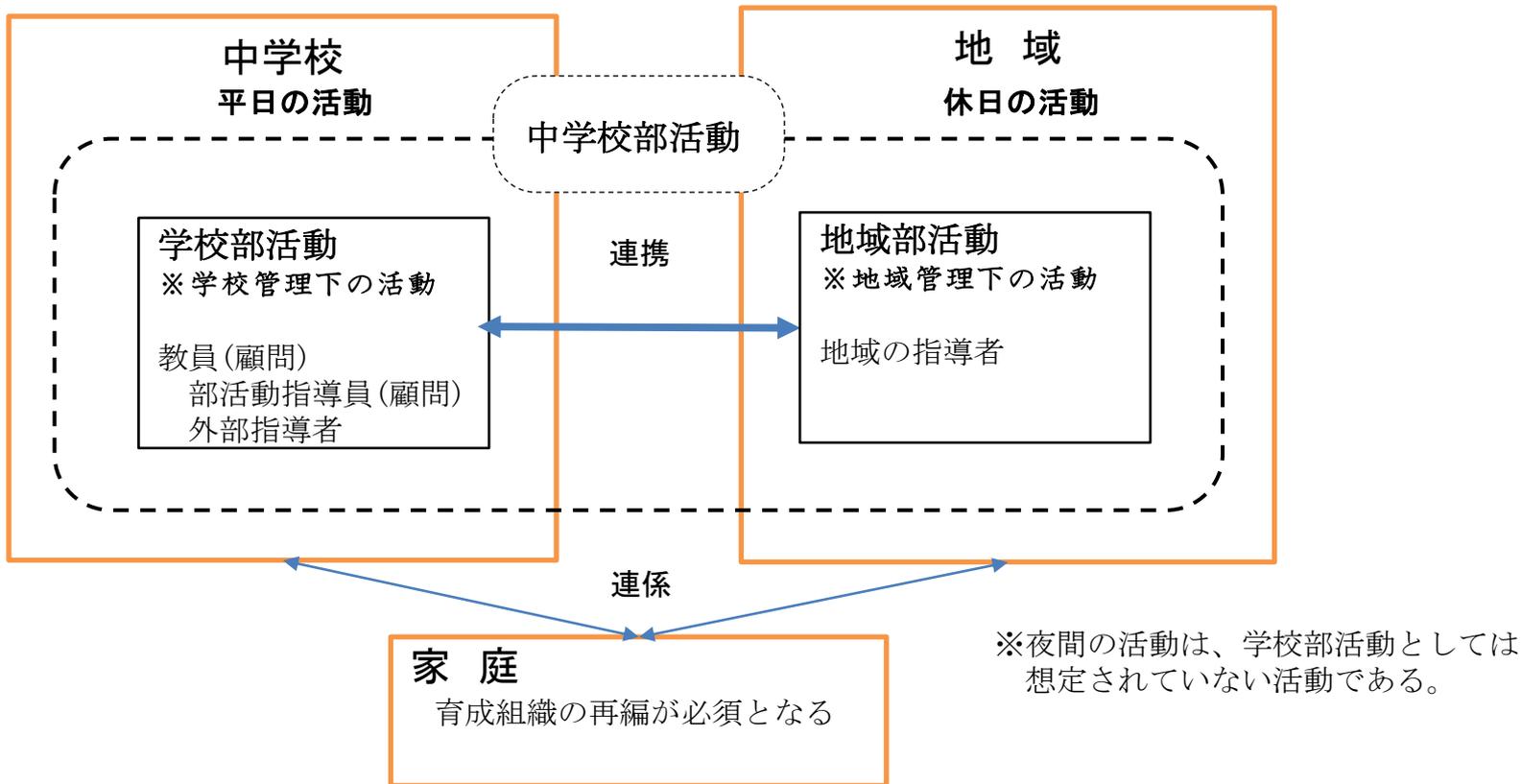
クラブ指導者 : 総合型クラブの指導者（部活動の外部指導者を兼務している指導者は多数いる）

※県内でよく使われている社会人コーチは、いずれの立場の指導者であるか区別できることが重要となる

1-2 地域部活動推進事業（学校の働き方改革を踏まえた部活動改革）

具体策：休日の部活動を段階的に地域移行

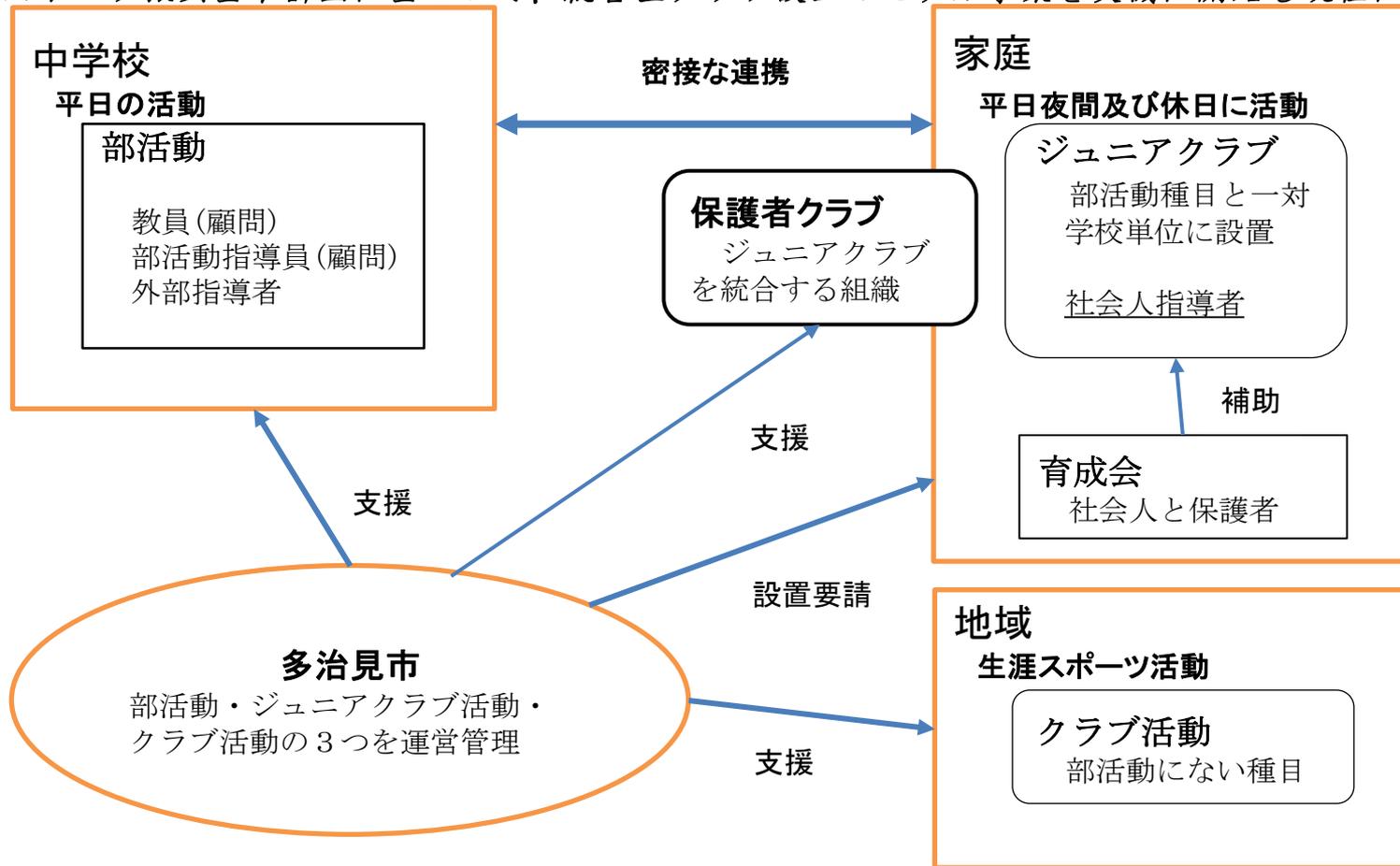
学校と地域が連携して部活動改革を推進する



説明 この図案の通り、中学校と地域が連携して中学校部活動の改革を推進する学校の連携相手となる総合型クラブなどは、事業の再構築が求められることになる部活動の目的や指導方針などを、関係者(学校・地域・家庭)の共通理解と意思統一が重要となる指導者の確保・養成や待遇問題、保護者組織の再編、行政の支援策など検討課題は多い

1-3 部活動地域連携事例 I (多治見市 平成15年度から開始)

スポーツ振興基本計画に基づいて、総合型クラブ設立のモデル事業を契機に開始し現在に至る



特徴 多治見市が制度設計し、運営管理に主導している

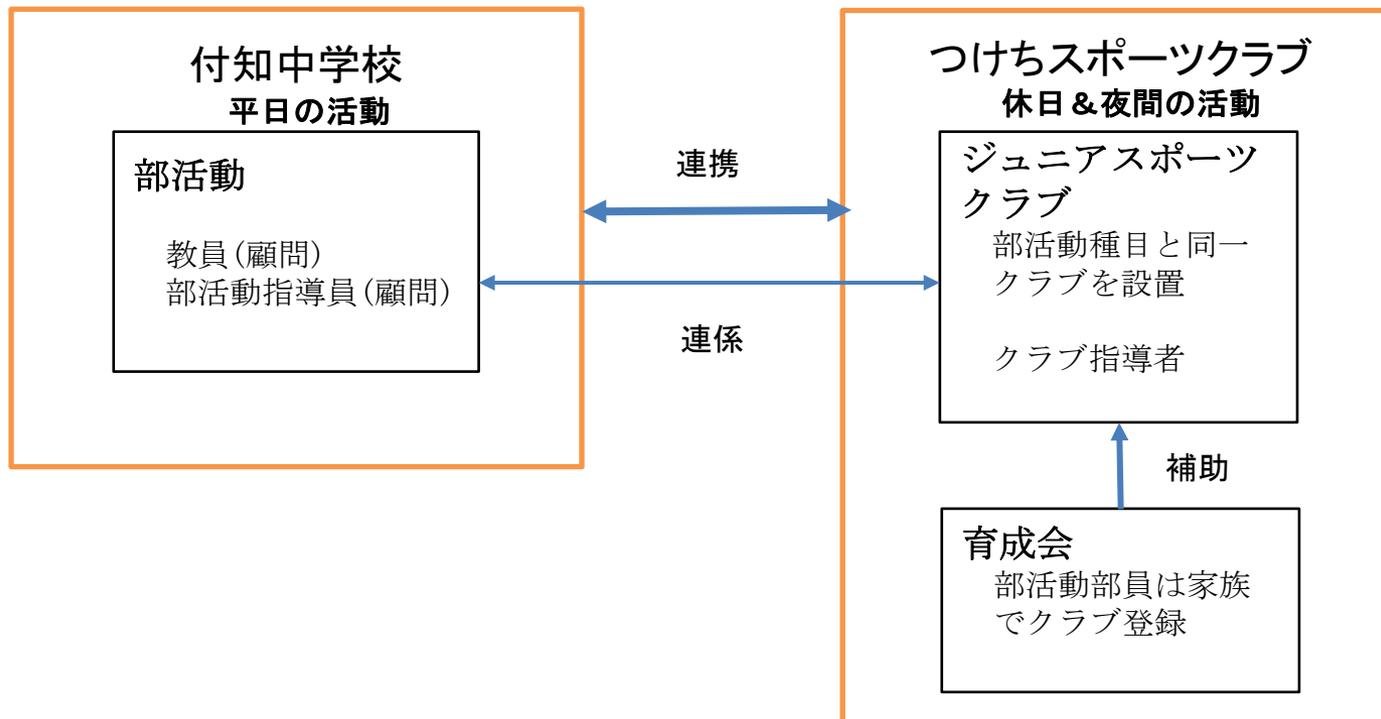
中学校内の全ジュニアクラブを統一して保護者クラブを組織した事例がこいずみ総合クラブとなる

※ジュニアクラブは、地域部活動の機能を備えており、地域部活動と言えなくもない

但し、行政と家庭の関与が必須であり、地域(連携相手)としての自立や態勢づくりが求められる

1-4 部活動地域連携事例Ⅱ（つけちスポーツクラブ 平成18年度から開始）

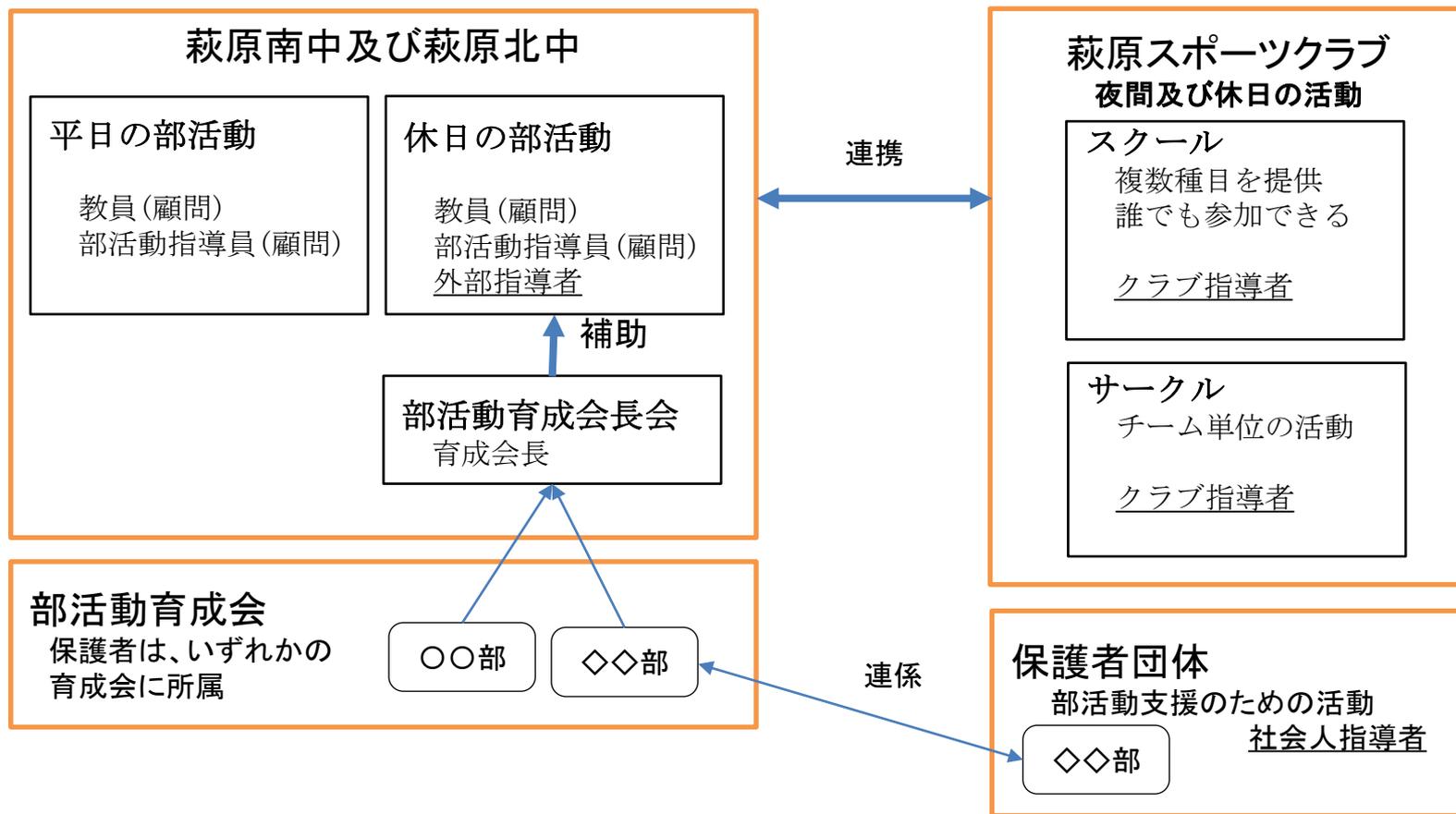
スポーツ振興基本計画に基づいて、総合型クラブ設立と同時に地域連携をめざした事例



- 特徴 部活動の関係者が協力して設立した総合型クラブで、中学生のスポーツ育成が主要事業となる
育成会は、クラブに所属する組織である（中学校には育成会は不要）
地域のマイクロバスの運用管理をクラブが行っている 大会等の送迎が容易
自主運営している総合型クラブであり、地域部活動推進の実施事例として評価することもできる
（学校単位での連携モデル ジュニアスポーツクラブを地域部活動と見なす）
※今後、地域部活動推進を実施するには、まずは指導者謝金が課題となる

1-5 部活動地域連携事例Ⅲ (萩原スポーツクラブ 平成15年度から開始)

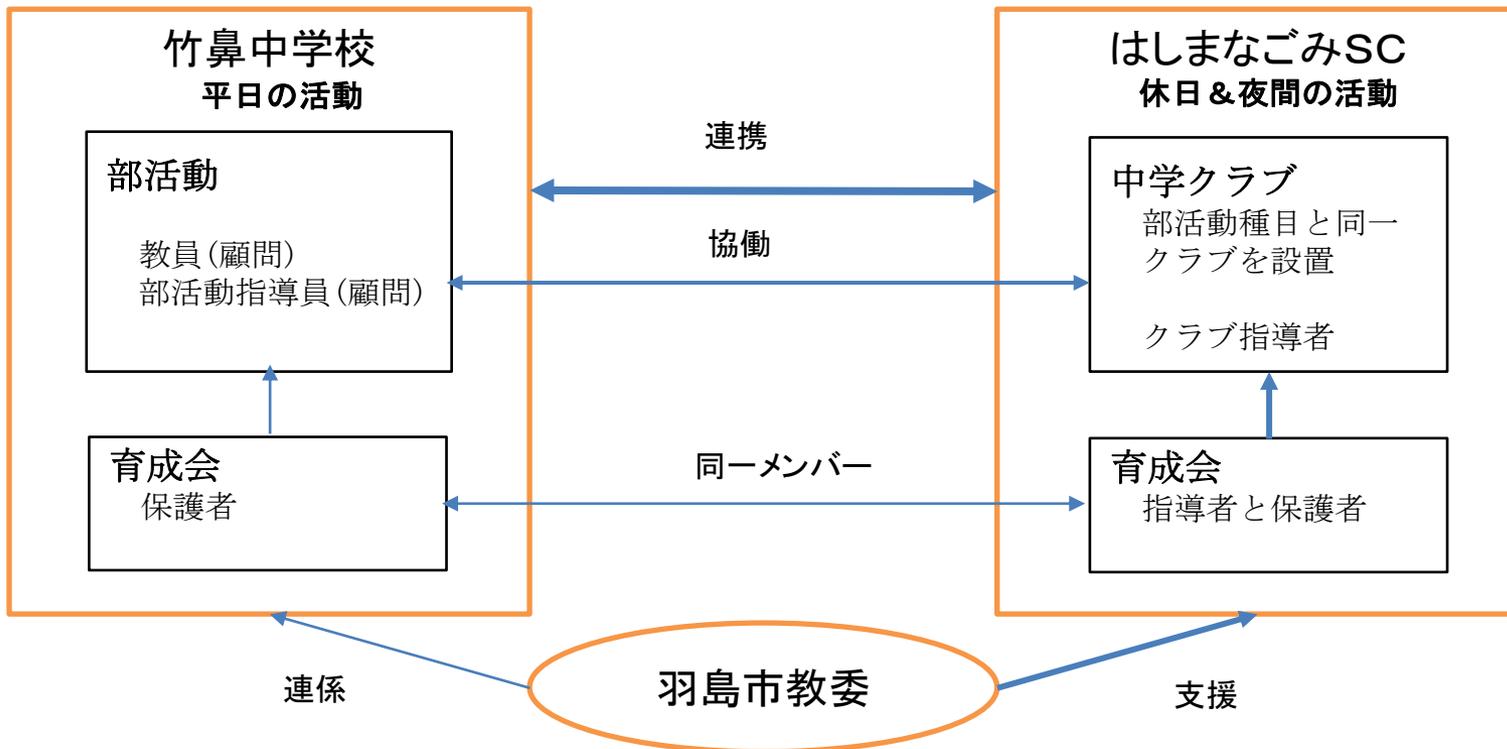
所属中学校やチームに関係なく、誰でも複数種目に参加できる総合型クラブをめざした事例



特徴 複数中学校からの参加、複数種目への参加ができる仕組みを有している
学校とクラブで同一メンバーのチームが多々ある
休日の活動時は、部活動かクラブのいずれの活動としても良いので、その時々で決めている
総合型クラブとは別に、保護者による部活動支援組織も活動している
※地域部活動推進は、現状の仕組みを改良し、運営改善しての対応を検討できると思われる

1-6 地域部活動実施事例 (はしまなごみスポーツクラブ 令和3年度開始)

岐阜県内にて地域部活動の実施を始めた総合型クラブの事例



特徴 教育委員会が地域部活動に関わる制度設計をして、はしまなごみSCに事業委託した形式
地域部活動の実践研究段階であり、運営には教育委員会の関与が必要な状況
育成会が2つある状況(部活動と中学クラブの両方に会計があるなど)

※なごみSCの自立(法人化など)に向けて羽島市他の育成支援が地域部活動の推進に繋がると思われる

◎地域部活動推進における要点（実践研究の成果）

これまでの実践研究の結果を踏まえて、下呂市北部3中学校(拠点校:萩原南中)の中学校部活動改革の推進(休日の部活動を地域移行する)における要点を下記します。

①サークル(ジュニアクラブ)に育成会を設置する

- ・学校部活動の育成会を萩原SCに移す *学校部活動の支援はここで行う*
- ・代表者を萩原SCにて任命する *萩原SC会員(クラブ指導者など)から選出*
- ・ジュニアクラブ規約を作成する *規約は学校と萩原SCにて検証*

②中学校と萩原SCの各々の目的・方針を理解し、指導方針の統一を図る

- ・スポーツそのものの価値と、教育手段としての価値 *指導者研修など*
- ・各サークル毎で、指導者会議を設置・開催 *顧問とクラブ指導者*

③下呂市の総合型クラブ(地域部活動を実施)への支援策の見直し、変更を要請する

- ・中学校への助成施策の移行
- ・総合型クラブ育成の強化

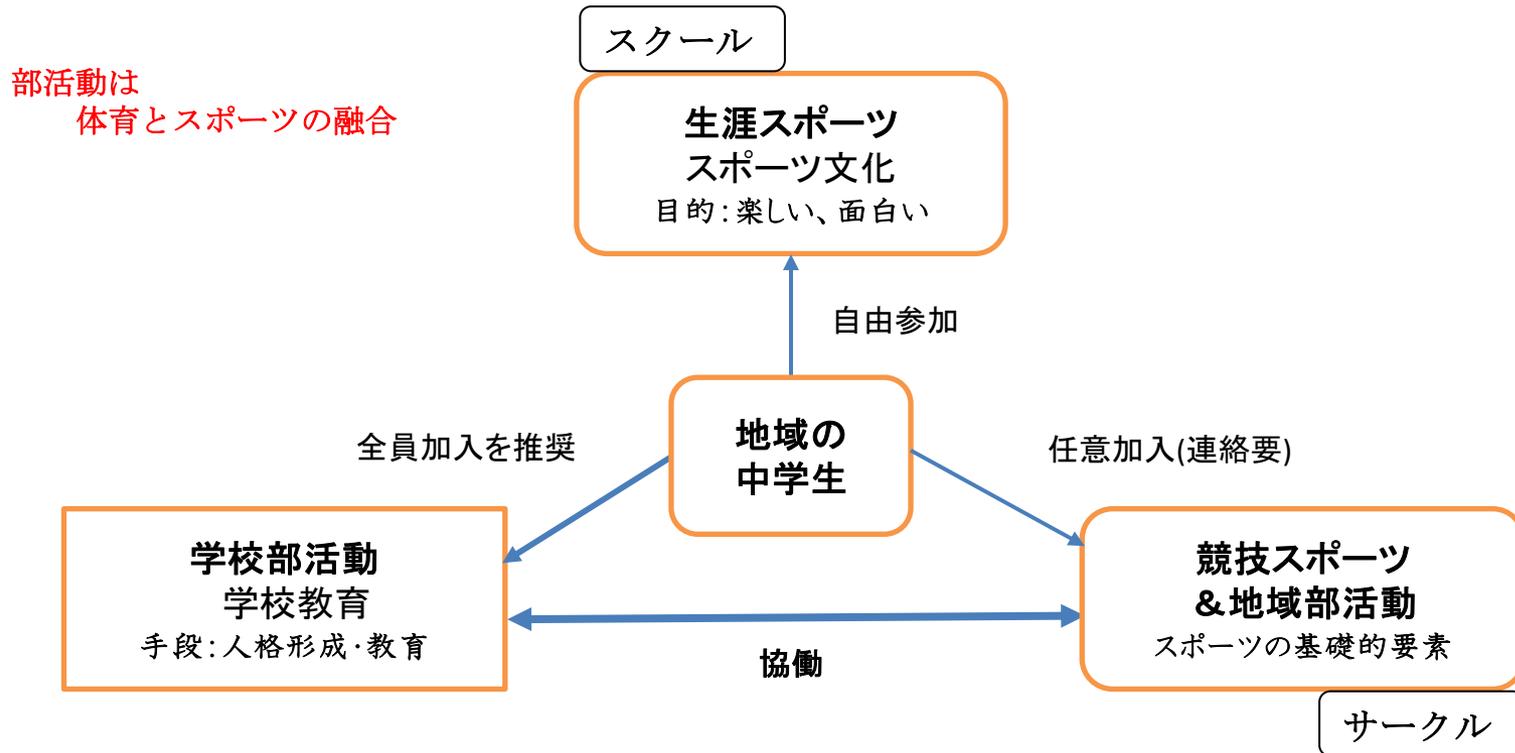
※事業設計は、現在の萩原スポーツクラブの事業をベースに制度改良と運用改善を図る

- ・連携形態は協働連携とする *互いに対等の立場で協力する*

1-7 地域小中学生スポーツ育成基本概念（萩原スポーツクラブからの提案）

地域の小中学生のスポーツ育成に関する事業改革を行います

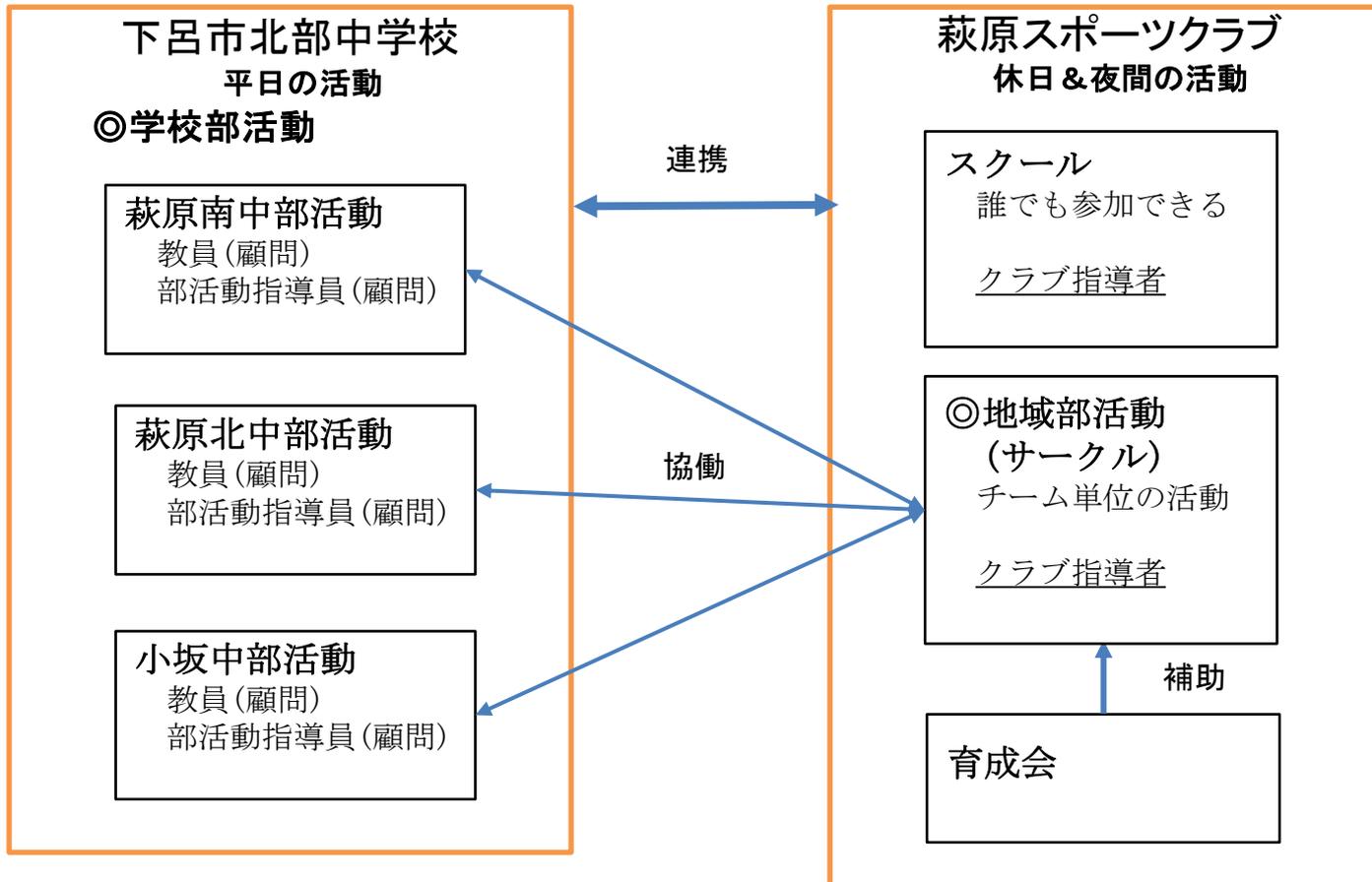
中学校部活動は、その中で主要な活動であり、改革の重点課題として対策を行います



説明 学校部活動は中学校、地域部活動(競技スポーツ)は総合型クラブにて実行する
総合型クラブは、地域部活動の他に生涯スポーツも実行する
(萩原SCでは、競技スポーツ=サークル 生涯スポーツ=スクール と呼称している)
部活動改革は、地域小中学生スポーツ育成事業の最重要課題として捉えて実施する

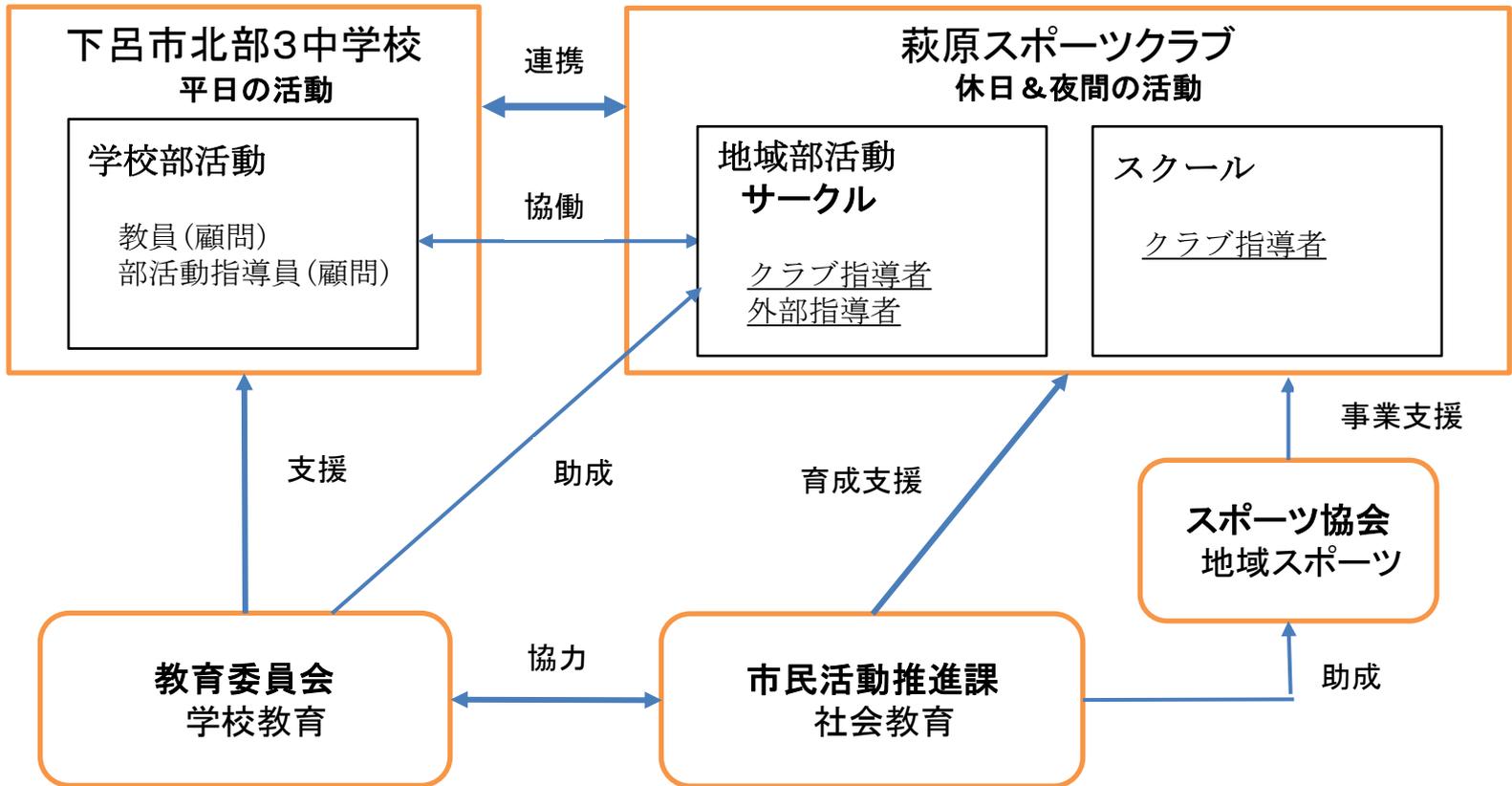
1-8 地域部活動推進案（萩原南中学校他と萩原スポーツクラブの連携）

現在の萩原スポーツクラブのベースに、組織体制と運用方法の改善を行う



説明 サークルは、原則1種目1チームとする（大会により学校単位での編成はある）
育成会は、クラブ内にて組織し、必要に応じて学校部活動の支援も行う
学校部活動の連携策は、中学校にて協議する（学校単位と3校合同の協議が必要）
地域部活動の事業財源の確保など地域部活動推進会議にて協議し、解決を図る

1-9 地域部活動推進に関する組織関連図



説明 各中学校と萩原スポーツクラブは、連携方針を明確にする
 下呂市の関係部署は、協力して中学校部活動支援を統一して実行する
 市民活動推進課は、自立した総合型クラブの育成を促進する（地域部活動推進に必要）
 スポーツ協会は、地域スポーツ部門を設置し、総合型クラブの事業支援を行う（事業計画案承認済）

2-1 中学校部活動の現状（萩原南中学校）

2-1から2-3は、萩原南中学校にて作業する項目となります

中学校部活動の活動状況は、学校職員以外の人には詳しく知らないブラックボックス状態です。地域連携推進のために、部活動の実態について関係者みんなが共通認識できるようにしてください。

主な収集情報項目例

【全体概要】

部活動名、活動可能時間、実稼働時間、週間予定、指導者数(顧問・外部指導者)

【一覧表】

部活動名、種目、部員数(学年別)、指導者名(顧問・外部指導者)、活動日・時間、活動場所、

【年間予定】

大会・イベントなど 大会名、開催時期、開催場所、イベント主催者、

【育成会】

規約等を作成している部活動があれば入手する

【地域連携】

連携先(総合型クラブも含む)、代表者、指導者、活動日・時間、場所、

【その他】

共有すべきと考えられる情報

2-2 中学校部活動の見直し・改善

中学校部活動 = 学校部活動(平日の活動) + 地域部活動(休日の活動+夜間)
2つの部活動を考えてください

要点 今回の事業の特徴は、各中学校毎で地域に合った解決策を考え実行することです。
国や県から解決策の指針や提示はありません。(∴実践研究となっている)
教員のみなさんでの検討が求められています。

①中学校部活動の課題について再確認する

- ・2-1の作業結果を参照して作業

②地域部活動が存在することを前提として、これからの中学校部活動を考え、協議する

- ・学校部活動(平日の活動)にてやるべきことは? 中学校でデザインしてください
- ・地域部活動(休日の活動)に委ねることは? 考えを統一してください
- ・地域の指導者や保護者に伝えることは? 地域に判るように説明してください

③講演会を開催する

- ・地域部活動の設計を仕上げるためのアイデアやヒントをつかむことを目標に計画設定
講師への質問や提案など前もって整理し提出すると良いのでは

※講師 神谷拓氏 関西大学人間健康学部教授

2-3 地域部活動(休日の活動)の設計概要

総合型クラブからの提案

地域部活動は、総合型クラブ管理下の活動となります。

そして、部活動の課題のほとんどが、ここに存在しています。

- ・勝利至上主義、体罰、いじめ、バーンアウト、過剰な活動、過剰な関与、傷害発生などの解決をめざす

学校と地域の連携には、次の2つの手法が考えられます。(岐阜県内の事例を参考)

【委託型】

地域部活動の制度設計は、学校で行う
地域は、学校の指示・要請に従って業務
事業財源は委託側で考える
(はしまなごみSCの現状は委託型)

【協働型】

学校と地域が協働で事業を行う
協働: 互いに対等の立場で協力する
事業財源も協働で考える
※萩原SCは、協働型の連携を選択する

協働連携における萩原SCからの要望について

- ①連携先は、原則として総合型クラブとする
- ②育成会は、萩原SCに組織する
- ③スポーツ育成についてみんなで学習する
- ④指導者会議を設置する

萩原北部地域は、萩原SC
学校部活動の支援も行う
部活動に関するイメージチェンジ
指導者の意思統一、指導力の向上など

※スポーツ指導者研修のための講演会を開催

講師: 高橋正紀氏 岐阜協立大学経営学部教授

2-4 平日の夜間の活動について 学校と地域の狭間の改革

中学校部活動改革では、平日の夜間(学校就業後)の活動に触れていません。
学校部活動と地域部活動の狭間となっている時間の活用について提案します。

目的 : 地域ネットワークで健全な小中学生スポーツ活動環境を構築する

小中学生のスポーツ活動の提供と、休養・睡眠時間を確保する

戦略 : 午後5時過ぎの指導者を確保する 午後7時帰宅の達成

戦術 : 地域ぐるみで指導者が指導に携われる社会の構築

企業 : CSR(企業の社会的貢献)、宣伝

指導者 : 副業として許可 教員(兼職兼業施策)だけでなく社会全体で変革

中学校 : 地域部活動の充実 地域に委ねられる

クラブ : 指導者の確保、財源の確保(賛助会員など)

効果 : 小中学生の生活時間の改善

提案背景

萩原SCでは、小中学生の夜間活動の終了時間を問題と捉え対応を検討してきました。現在は最終時間を、小学生20:30、中学生21:00までとし可能な限り早くするようにしています。しかし、地域の生活習慣からこの終了時間ですら尊重されていません。

指導者も19:00や19:30からの指導開始が生活に浸透しており、これを変更することが、これまで難しいと思われてきました。

地域部活動の推進を契機に、地域社会全体の生活時間の改善にまで展開できればと思います。

過疎地の市町においては、指導能力のある人を集めるのではなく、地域の人を指導者に育てることで指導者の確保を行う方法が適しています。部活動は、中学生の教育目的に加え、地域づくりにもつながる活動として実行されています。それは、スポーツの勝敗よりも重要視されるものと考えます。

3-1 萩原SC事業の再構築 サークル(地域部活動)・スクールの改善

地域部活動は、萩原SCの現状の会員サービス事業をベースに、業務内容の見直し・改善して行います。

萩原SC 会員サービス事業

- ①スクール 部活動に無い種目、未加入の地域部活動種目など複数のスポーツに参加できる
- ②サークル 地域部活動としての機能を兼ねる 大幅な変更・改善となる
- ③指導者養成 クラブ指導者登録する顧問を交え、指導方針の統一や指導能力向上を図る
- ④イベント サークルにて開催するイベントをクラブにて支援する(地域交流事業他)

※中学校の部活動方針に応じて、会員サービス事業の変更・改善を協議し、実施することになります

会員サービス事業再構築の要点

- ①意識改革 これまでの活動から地域部活動を踏まえた活動への意識の変換
- ②育成会の設置 萩原SC管理下の組織に変更する 役員交代や決算は年度度
- ③指導者の養成 クラブに指導者登録する顧問を加えた指導者の意思統一と指導方針の統一
- ④財源の確保 地域部活動を継続できる体制を築く

※萩原SCの運営委員会及びスクール部会にて協議し、会員やスタッフに向けて説明・指導します。

萩原SCの理念、目的に合った形で、事業の再構築を行います。

中学校部活動連携は、協働連携を選択しています。

4-1 下呂市の支援体制 地域(総合型クラブ)からの改善提案

①部活動に向けた現在の支援・補助について 教育委員会

- ・外部指導者謝礼・傷害保険料の補助
- ・部活動育成補助金 部員数× 円
- ・遠征補助金 大会参加などの経費
- ・地域部活動の開始に伴う新規助成策

②総合型クラブに向けた自立支援として 市民活動推進課

- ・体育施設使用料 地域部活動は全額免除とする
総合型クラブの自立支援策として、小中学生生活動は全額免除
- ・総合型クラブの自立支援策の強化

③下呂市スポーツ協会の業務改革に関連して

- ・地域スポーツ部門の創設に絡めて総合型クラブの助成

※令和4年度事業計画・予算に計上するために期限内の決定が必要

5-1 下呂市こどもスポーツ育成ネットワーク

地域部活動推進事業に係る組織のネットワークを構築します。
継続して活動する組織を目標とします。

下呂市教育委員会	学校教育
下呂市長公室 市民活動推進課	社会教育
下呂市内中学校	中学校部活動
下呂市スポーツ協会	地域スポーツ
総合型地域スポーツクラブ	スポーツ育成

さらに、下呂市全体のスポーツ活動に寄与するネットワークの構築をめざしましょう

下呂市役所他の行政組織、自治会組織、民間企業、NPOなど
多様な集まりのネットワーク